

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (3 日目)

(平成 26 年 12 月 10 日 午前 11 時 05 分)

●議長 (小林幸雄) 休憩前に続き会議を開きます。

通告の 8 佐藤仙治議員。

- 1 県北部地震災害について
 - 2 町政施行 60 周年記念事業について
- 議席番号 3 番・佐藤仙治議員

◆3 番 (佐藤仙治) 議席番号 3 番・佐藤仙治です。これから一般質問に入ります。

まず、横川町長におかれましては、この度の町長選挙において見事当選されました。そして、町長に就任されたお祝いを申し上げます。町長の豊富な行政経験に加え、町政を外部から見つめられた 8 年有余の期間の経験、この二つの貴重な経験を十二分に生かして、柔軟な発想の基に活力ある行政運営を期待するものであります。

質問に移ります前に、今回の地震において被災されました皆さんに対して、まずもってお見舞いを申し上げたいと思います。

さて、本日私の質問は、1・県北部地震災害について、および、2・町政施行 60 周年記念行事について、の 2 点であります。

まず冒頭に、先日町長は 12 月会議の開会挨拶で、議会に対して、町の最高議決機関として、また二元代表制度の一方の住民代表として、町民の福祉向上と信濃町発展のため、町民との信頼関係を礎として建設的な議論を進めたい、との所信を述べられました。私も全くそのとおりだと思っています。そのためには、町当局の簡潔丁寧で分かりやすい説明や答弁があつてこそ、建設的な議論が展開されるものであると考えます。また、町民の人命と財産を守ることが、首長に課せられた最大の使命であると私は考えますが、本 2 件に関して、まず、町長の見解をお伺いいたします。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 今、佐藤仙治議員さんからも、私の立場にあたりましての祝意を頂戴いたしたところでございます。感謝申し上げます。

さて、今、議会議員の皆さん方との関係も含めて、前段ご質問もいただいたわけでございます。ご案内のように、私自身は、まさに町民の皆様の、まさに福祉の向上という大きな目標に向かって、この首長の仕事というのをしていかなければいけないということを、肝に命じているところでございます。そういう意味では、今申し上げられた議会の皆さん方も、そういう中で、是非また経験も踏まえて、私自身に対してもご指導賜りつつ、町民の皆さん目線の中で、建設的なご議論を賜れば大変ありがたいなど、こういうことで申し上げさせていただいているところでございます。

そんなことで私自身は、おっしゃるように本当に町民の皆さんの生命、財産を守るといのが、極めてこの防災上の観点からしても、大変な重要なことであるというふうに認識をしておりますし、そういう思いで職員共々、丁寧な説明責任ということも含めて、

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (3 日目)

今後また対応させていただきたいというふうに思っております。以上でございます。

●議長 (小林幸雄) 佐藤仙治議員。

◆3 番 (佐藤仙治) それでは、質問に移ります。去る 11 月 22 日午後 10 時 8 分に発生し、信濃町でも震度 5 強を記録した、県北部神城断層地震災害に関し、その対応について、職員災害対応マニュアルの内容を中心に質問いたします。

今回の地震は、この町で発行しています地域防災計画によりますと、糸魚川静岡構造線北部の地震という定義付けがあります。一方、この防災計画で町が想定している地震というのは、信濃川断層帯の地震ということで、少し離れているんです。にもかかわらず、震度 5 を記録したと、非常に大きな地震だったと私は思っています。当該地震では町では死傷者を、失礼しました、想定地震では、町では死傷者を含む人的被害に加え、1500 軒有余の建物被害等が記載されています。これは防災計画の話です。従って、当該地震も現実味を帯びてきていると考えても、私は不思議ではないと思います。

町の防災計画について、こういった状況を踏まえ、見直し等についても、今まで以上にスピード感を持って取り組むべきと考えますが、町長のご見解を伺います。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) お答えを申し上げます。本当に 11 月の 22 日、震度 5 強ということで、私ども信濃町の町内でも、ご案内のように大きな被害と申しますか、も発生したわけでございます。改めてその被害に遭われた皆さん方に心からお見舞いをまず申し上げます。改めてその被害に遭われた皆さん方に心からお見舞いをまず申し上げます。

今、そういうことの教訓に基いて防災計画の見直しを適切に、ということだというふうに理解して、お答えをさせていただいておりますが、防災計画見直しそのものについても、今、一生懸命スピード感を持って取り組んでいるところでございます。そういうことを含めて、先ほどご案内いただきましたように、町民の安心、安全ということも財産も含めて基本にしながら、言われるように、いかなる大規模災害、地震も含めてそれらに対応すべく、今考えられる英知を結集しながら、その防災計画に反映していくということで、取り組んでいただいているということでございますので、ご理解をお願いしたいと思います。

●議長 (小林幸雄) 佐藤仙治議員。

◆3 番 (佐藤仙治) 私は、過去の一般質問で 3 回にわたって、地震総合訓練、失礼しました、地震総合防災訓練や防災計画等に関する町の考え方を、同僚議員と共に問題の提起、その他改善等について実践的に対応すべく提案してきましたが、町当局とは、なかなか議論が噛み合うことが少なかったのが事実であります。今回は訓練ではなく、実際に震度 5 強という大きな地震が発生しました。町では、今回の地震発生に災害警戒本部

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (3 日目)

を設置して、事態収拾にあたったと聞いております。それでは、以下 5 点について説明を求めたいと思います。

職員防災対応マニュアルに書いてある 1 番の、職員の配備体制。

2 として、職員の参集。

3 番として、非常配備体制。

4 として、被害情報の収集。

5 として、避難対策等について。

当日の災害警戒本部の実施責任者から、実施状況について、簡潔、明瞭に説明をお願いいたします。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 今回の災害に際しまして、防災の、いわゆる災害対応マニュアル、通称私どもが言っているその「赤本」という本が、マニュアルとしてあるわけでありませんが、それぞれ適切な対応をしていただいて、参集もスムーズにいき、そしてまた、災害に対する情報収集等々についても、今回はそのマニュアルに基き、適切に機能したというふうに私は報告を受けております。その後、もし細かいことがあるようでしたら、また担当課長の方から申し上げますが、この災害につきましては、まだ災害警戒本部という位置付けで、余震も続いておりますので、信濃町についてはまだ警戒態勢を整えているというところがございます、引き続き注意を払っていきたいということがございます。以上でございます。

●議長 (小林幸雄) 北村総務課長。

■総務課長 (北村政光) ご質問の通告内容に沿いまして、申し訳ございませんが、通して私の方で説明をさせていただきたいと思っております。

まず、今回の地震でございますが、震度 5 強を観測しましたので、職員災害対応マニュアルで申し上げますと、非常配備となりますけれども、ほぼ全員の職員が当日は参集しました。参集しました人員につきましては、町長、副町長を含めまして全体で 87 名になります。町内 65 名、それから町外では 25 名。23 日は町長選挙がありましたので、選挙事務等の従事者を除きまして、全部で 53 名の職員が、23 日には活動しております。内容につきましては、町内が 34 名、町外が 19 名で対応をしているところでございます。

地震発生後、直ちに役場に参集いたしまして、まず、オフトーク放送及び屋外放送を通じまして、地震発生の状況と、身の危険を感じた場合には避難するように呼びかけたところでございます。この放送につきましては、町内の皆様にも、ある程度伝達できたのではなかろうかというふうに思っております。それから理事者、課長等が参集いたしましたので、22 時 29 分に地震災害対応本部の設置を行いました。配備基準で申し上げますと、震度 5 強でございますので、先ほど申しましたように、災害警戒対策本部、災害警戒本部ということになります、大規模な被害の予想や、夜間での発生ということ

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (3 日目)

でございましたので、災害対策本部として設置をいたしまして、全職員の招集を行ったところでございます。併せまして、同時に消防団員の出動についても要請を行っております。22 日につきましては、84 名、それから 23 日につきましては、65 名の消防団員の方が出動していただいております。消防団員の方につきましては、被害や避難状況等の把握を行っていただきました。職員につきましては、ライフラインあるいは公共施設等の確認を指示いたしまして、避難所開設の準備も行ったところでございます。

また、情報がどんどん、どんどん寄せられてまいりましたので、そのような中で灯油タンクからの漏油等がありましたので、その処理等にも職員を出動させまして、集まってまいりました職員につきましては、全て班編成を行いまして、被害状況の、被害の情報等が多かった方面でございますが、特に多かったのが東部、それから穂波地区、水穴等に、水穴から菅川方面にかけまして、また古海、野尻までの周遊道路等につきましても、確認を行わせたところでございます。道路等の隆起につきましては、即刻、建設課でバリケード等の設置を行いまして。また、水道係では水道管の破損等の箇所の特定、応急措置等を行いまして、住民福祉課では、独居老人等の安全確認等を行ったところでございます。今申し上げました他にも、これは、ほんの一部のことでございますが、実際には寄せられました情報等に対しまして、適切に対応等行ってきたというふうに認識をしております。以上です。

●議長 (小林幸雄) 佐藤仙治議員。

◆3 番 (佐藤仙治) 今、総務課長から詳しい説明をいただきありがとうございました。本件については、新町長就任日が、この事故の、事故というか地震発生以前でありまして、町長から答弁いただけるとは思いませんでした。

次の質問に移ります。警戒本部というのがあって、本部長は確か町長だったと私は記憶しています。副本部長が副町長と教育長というふうに理解しています。そこで、当時の副本部長、警戒副本部長から、今ここにおられるのは静谷教育長だと思うんですけど、総括的な見解をお伺いしたいと思います。本件に関して。

●議長 (小林幸雄) 静谷教育長。

■教育長 (静谷一男) 副本部長の立場の教育長になってはいますが、本当に正直、当日の話を申し上げますが、私は京都にいました。実はお袋が亡くなって、親父の京都のお参りに連れて行くという約束を従前からしてあって、理事者の皆さんには数か月前から、この日はどうしても、連休ですが、投票日でもあるし、大変な日なんですけど、お休みをいただきたいということで、前もっての計画だったものですから、京都におりまして、夕方のテレビで情報を聞き、すぐ副町長なり、館長なり、いろいろな方との連絡を取りながら情報を聞き寄せるということで、そちらからこちらのほうに、本部へ駆けつけることができなかったという、そういう状況であります。帰って来てから、それぞれお詫びをしながら、情報を聞き寄せたということで、対応についてはほとんど副町

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (3 日目)

長、今は退職をされましたけれども、佐藤副町長が指揮を執っていただきました。以上です。

●議長（小林幸雄） 佐藤仙治議員。

◆3 番（佐藤仙治） ちょっと話題を変えるんですけど、今こういう、例えば町長不在、理事者の不在という場合は、臨時代理とか、そういう制度はあるのでしょうか。ちょっと通告質問にはないんですけど。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 災害も含めて、行政全般の運営も含めて、いわゆる組織の責任者といえますか、いない場合には、次はこういう人がその任を行う、これは当然にシステム上、そういう性格を持って組織上が成り立っているというふうに理解しています。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤仙治） 私は、これも一つの教訓だと思うので、是非、そういうものも含めて、もう一度見直し、検討していただければありがたいなと思っています。

次に移ります。私がこれから述べる項目のうち、問題点等、あるいは改善点等あれば、説明をお願いします。

1、指示、命令系統における問題点はなかったかどうか。その辺、なければないで結構です。改善点があれば教えてください。総務課長からお願いします。

●議長（小林幸雄） 北村総務課長。

■総務課長（北村政光） 当日の指示等につきましては、町長、副町長、現場におりました。実際に情報等入ってまいりますのは、全て総務課のところに入ってまいります。私も総務課職員が現場で指示等出して、実際に対応等行ってきたところでございます。以上です。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤仙治） 特にこのマニュアルどおりで問題なかったという理解でよろしいでしょうか。

●議長（小林幸雄） 北村総務課長。

■総務課長（北村政光） それぞれ、各課、役割分担がございます。住民福祉課、建設水

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (3 日目)

道課、あるいは産業観光課等、それぞれ役割に基きまして、それぞれの業務をこなしていたというふうに、私は認識しております。以上です。

●議長 (小林幸雄) 佐藤仙治議員。

◆3 番 (佐藤仙治) 職員の参集についてお伺いします。当日 22 日ということで、確か 3 連休の中日だったんじゃないかと、最初ですか、翌日が選挙、町長の選挙ということで、ある程度、先ほど総務課長からも説明ありましたが、人員確保で、家で待機なりしていたと思うんですけど、平日ならいざ知らず、災害、特に地震何ていうのは、いつ発生するか分からないので、今回はそういう面で言ったら、一番最悪というわけではないんですけど、非常に厳しい条件だったと思います。その辺の、参集についての問題点というか、気付いた点があれば、総務課長の方からお願いします。

●議長 (小林幸雄) 北村総務課長。

■総務課長 (北村政光) 先ほど申し上げましたように、参集人員につきましては、町内が 65 名、町外が 22 名ということでございまして、87 名の職員が夜間にもかかわらず参集しております。今現在、一般職が 116 名くらいかと思っておりますので、出張、あるいは旅行等で居なかった人間も、ある程度はいるかと思われませんが、割合にいたしますと 8 割くらいの間が、夜間でも参集できたということでは、かなり結果としては良かったというふうに私は思っております。それから、翌日、先ほど申し上げましたように、町長選挙がございまして、どうしても町長選挙の方に 60~70 名取られるというような状況もございましたので、残りの全員に招集をかけましたので、ほぼ集まれる人間は全て集まったという状況でございます。以上です。

●議長 (小林幸雄) 佐藤議員。

◆3 番 (佐藤仙治) 今回は、選挙等あって、ある程度人員の確保も、めどがついたということなんですけど、もし、これが無かったとすると、もう少し確実に稼働できる人数というのは減ったというふうに考えますが、その辺はどうでしょうか。

●議長 (小林幸雄) 北村総務課長。

■総務課長 (北村政光) 私は逆だと思っております。選挙で数 10 名取られましたので、それにもかかわらず、50 数名の人間が集まりましたので、かなりの人間が集まったというふうに私は認識しております。以上です。

●議長 (小林幸雄) 佐藤議員。

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (3 日目)

◆3 番 (佐藤仙治) 避難対策についてお伺いします。防災マニュアルでは、安否確認です、要援護者の、この辺の状況について、もう少し詳しく担当からご説明をお願いします。

●議長 (小林幸雄) 高橋住民福祉課長。

■住民福祉課長 (高橋博司) それでは、ご説明申し上げます。まず、支援を要する方々の安否確認ということでございますが、当日、災害対策本部が設置されまして、その中で状況等が刻々と入ってまいります。そういう中でどういう体制をとったらいいかということで、まず職員に指示をいたしましたのが、避難所を開設する準備を、担当係の方に、担当班の方に指示をしてございます。また刻々と入ってまいります状況の中で、避難をされるという想定をした場合に、今回の災害の場合には連絡が付けられない、高齢者の1人暮らしのお宅、例えば家具等の下敷きになってしまって、電話もできないというようなことを想定をいたしまして、独居の高齢者のお1人暮らしの安否確認をしようということで、方針を決めさせていただきました。夜間ですが、今までもご相談をさせていただき中で、民生児童委員の方から随時連絡が、安否の連絡が入ってくるような状況でございましたが、夜間ということもございましたので、次の日に職員が集まる中で、1人暮らし、高齢者の方々の安否確認を民生児童委員さんの方々に一時的にはお願いをしたところでございます。そういう中で、安否が確認された方、安否が確認できない方、という情報が入ってまいりまして、安否が確認できない方につきましては、当課で所有をしております様々な情報を組み合わせる中で、近所の方、またご親戚、また何かあった時の連絡先等のデータもございまして、そういうところにお電話等する中で、一人ひとり確認をしていきまして、12時半には全員の方が確認をできたという形でございます。人数については、今資料を持ってきておりませんが、400から500人くらいいらっしゃるんじゃないかと考えております。

課題として考えますのは、やはり今回は1人暮らしの高齢者の方という形で絞らせていただいて、安否確認をさせていただいたんですが、これが全ての要支援の方の安否確認となりますと、また規模的にも違ってまいりますので、そういうものも想定する中で、準備を進めてまいりたいと思っております。以上でございます。

●議長 (小林幸雄) 佐藤議員。

◆3 番 (佐藤仙治) 課長に重ねて確認ですが、要援護者台帳というのは、十分に機能しているというふうに考えてよろしいのでしょうか。

●議長 (小林幸雄) 高橋住民福祉課長。

■住民福祉課長 (高橋博司) まず、要援護者台帳でございますが、国の指導等もございまして、データベース化されております。実際、夜間集まりまして、その一覧表といい

ますか、地図まで含めたものも出してみる、一覧表として確認をするということも行ったわけですが、実際現場で当日確認をしたものにつきましては、民生児童委員方さんに回っていただいて、それぞれ、そのご家庭ご家庭等の細かな情報等を台帳化させていただいておるわけなんです、それをまとめた名簿といいますか、リストがございます。そちらの方を中心に確認をさせていただいたと。と、申しますのは、その名簿につきましては、民生児童委員さん方の方へ全ていっておりますので、その中で確認をいただいたということで、実際の長期間になるような場合などにつきましては、そのデータベースの方も使えるのかなと思っておりますけれども、今回の場合につきましては、そのリストを使わせていただいて確認をさせていただきました。

また、データベースの方の課題でございますけれども、やはりそのデータベースに触れるには、セキュリティの問題がございます、当課の中でも、課の職員が誰が来ても見られるようなマニュアルはございますけれども、例えば電気が通じてないだとか、そういう場合もございますので、やはりその時に臨機応変に対応していくべきではないかなという教訓を得たところでございます。以上でございます。

●議長 (小林幸雄) 佐藤議員。

◆3 番 (佐藤仙治) それでは、次に情報伝達について質問いたします。先ほど、総務課長から伝達の方法という説明がありました。私は、これはやはり従来から質問して、質問で問い質していますけれども、一番重要なことではないかと思えます。と言うのは、今現状認識すると、信濃町は149平方キロですか、余りのところへ、約3千数百件の世帯があると、散らばって点在していると。それで、且つ、伝達手段の一つであるオフトーク、各家庭に入っているのは4割そこそこの加入率であるということで、全家庭を網羅するというのは、もう一つ、屋外スピーカーというのがありますけど、これは非常に聞きにくいし、聞きづらいというようなことを鑑みますと、情報伝達というのは、私は、早急に改善していく必要があると思うんですけど、町長この辺のお考えはどうでしょうか。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 情報伝達、災害時の情報伝達というのは、極めて大事なことだというふうに思っております。同時に、今議員さんが言われましたように、現状としてオフトーク放送、そしてまたその屋外放送等々があるわけですが、このオフトーク放送も実際には、その加入率の問題からしても、半分、町内半分以下の加入率に推移して、だんだん下がってきている、こういうことで、そういう時にいざ有事の際に、そのことが機能するかというと、必ずしもそうじゃないという現状については、私自身も認識はしております。その上で、将来にわたって、その今の災害も含めて、どういう情報伝達の方法が良いかということ、今、検討委員会といいますか、で、進めているというふうにも思っております。思っておりますというんですか、進めているという状況であります。

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (3 日目)

ですからそのことも踏まえて、これオフトーク放送については、加入率はかなり前から下がっているという実態があったわけです。ですが、いろいろな屋外放送等々の問題もあったりする中で、現実この今の全体の情報伝達の方法として、そういう方法を最大限活用するよりも他に手段がないという状況でございますので、そのことは、ある面、現状の利用方法とすればやむを得ないというふうに思うし、最大限に利用していくというのは当然のことだろうと思うんです。申し上げましたように、将来に向かっての情報伝達のあり方というのは検討しておりますので、その方向を踏まえて、早目に対応していく必要があるのかなというふうに思っております。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤仙治） 今、町長から早目に検討する、と。実は信濃町情報事業検討委員会というのが、そういう条例が今年の 3 月 24 日に制定されて、今後の計画等の答申等をもらうということになっているんですけど、やはりここは一大事なので、前倒しして早くこの新しいシステムに移行するという考えはお持ちでしょうか。確か今の放送というのは、平成 29 年 2 月末か 3 月末で終了になると私は理解しています。それを前倒しして、やはりこれは、私は住民の生命に関わるということなので、スピード感を持ってやっていただきたいと思うんですが、その辺の見解はどうでしょうか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 基本的には、様々なその条件が整えば、早目に移行していくという方向性が、私はその方向性は正しいんだろうと思うんです。ですから、どういう状況の中で、いろいろな諸条件もあろうかと思しますので、その辺も含めてできるだけ早目に機能できるような体制を整えていきたいという思いでございます。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤仙治） 関連なんですけど、この情報通信事業検討委員会の進捗状況というのは、現在どうなっているんでしょうか。いつまでに答申を出すというようなのは、確か諮問されていると、私は理解しています。

●議長（小林幸雄） 北村総務課長。

■総務課長（北村政光） 現在の進捗状況であります。これにつきましては、委員会、審議会を 2 回開催しております。それから視察を 1 回しております。本来ですと 12 月にもう一度会議を開きたいということでございましたが、今回の地震、それから衆議院議員選挙等が入りましたので、若干遅れている状況ではございますが、できるだけ早目に答申等をいただきまして、最終的な判断につきましては長のほうで、どうするかと

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (3 日目)

いうのを考えていただきたいということで、今やっているところでございます。以上です。

●議長 (小林幸雄) 佐藤議員。

◆3 番 (佐藤仙治) 事が事なので、スピードアップを図って、もう前倒しでもいいですから、答申を上げていただくということで進めていただきたいと思います。

次の質問に移ります。今回の地震で得られた貴重な知見、及び各種情報の有効活用について、町長にお伺いします。

私の主旨は、この今の地震の、こういう災害の記録を残してくださいというのが主旨であります。ちょっと質問通告にはそのようには書いてないかも分かりませんが、一つとしては、住民、行政が一体となって地震記録の作成と、保存と、被害の記録、聞き取り調査等であります。それから2番目としては、地震災害をいつまでも忘れずに記憶に留めるための記録保存、これは文書、聞き取り調査、あるいは写真、ビデオ等による災害記録の保存であります。3番目として、今回の地震で得た貴重な教訓を反映させた地震総合防災訓練計画を見直して、各地でその訓練、その計画に基いた訓練を重ねることで、万一地震等災害が発生した場合でも、冷静に自信を持って行動できるようにするというのが主旨であります。本件に関する町長の見解をお伺いしたいと思います。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) あの、ちょっとお答えが前後するかもしれませんが、お許しを願いたいと思います。この災害対応につきましては、今それぞれ地域の中でも自主防災組織というようなことで、ぜひその点を含めてお願いしたいということで、進めているわけでございますので、その辺はますます地域の皆さま方にもご理解をいただきながら、早目にそんな組織を立ち上げていただきたいというふうに思っております。

そしてまた、記録保存等々の関係でございますが、実際問題この災害時に、少ないこの職員体制、本部体制の中で、そこまで、今までは対応できていないというのが実状でございます。そしてまた、過去、平成7年の7.11災害の時には、若干ビデオ撮影もしたという経過はあるんですが、そのことを除いて通常の災害時では、まず災害対応ということに追われるものですから、そのことを最優先しつつ対応していくというのが、まず第一にやるべきことだ、その上で、今回もそうでございますが、関連の対応、あるいは被害状況等々も含めて、文書的には残していくというのは、これは当然記録として残させていただくという方向になろうかと思っております。以上でございます。

●議長 (小林幸雄) 佐藤議員。

◆3 番 (佐藤仙治) なぜ、こんなことを言うかということ、やはり町長の公約にもありましたけれども、情報の公開というのが、町長、今回公約に上げられたと私は理解してい

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (3 日目)

ます。今すぐというわけではありません。やはり大事な記録ということなので、もう一度検討していただきまして、やはり町民に、やはり私もそうですけど、忘れるというのは本当にちょっと経つと忘れてしまうので、是非記録として残していただきたいと、それを今後の訓練とか、実際、事があったとしても生かしていくということで、進めていただきたいと思っています。再度、町長の見解をお聞きしたい。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 重ねて申し上げますが、文書的に災害の対応も含めて記録として残しておくというのは、当然の事だと思うんです。今、議員さんおっしゃられるように、いわゆる情報の公開ということも含めてのご質問でございますが、このことについては、それこそ、何というんですか、自由に来て、その情報を見たいということになれば、どうぞひとつ自由に、自由にといいますか、一つの手続きもありますけれども、拒むものではありませんし、どんどんご覧いただくのはいいんじゃないかなと思っています。

●議長 (小林幸雄) 佐藤議員。

◆3 番 (佐藤仙治) それでは、次の質問に移ります。町長にお伺いします。平成 28 年 9 月には、町政施行 60 周年を迎えます。また、同年は小林一茶第 190 回忌の年でもあることから、記念行事、事業、イベント等を実施する考えはお持ちでしょうか。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 行政的に言いますと、来年 9 月 30 日が、30 日でしたかね、信濃町のいわゆる満 60 歳というようなことなのでしょうか。私は 60 周年だから特に何かやりましょうという考えの基本的なスタンスには、あまり立つという思いが無いんです。この、一茶が亡くなってから 190 年ということで、来年 190 回忌という事も、今、佐藤議員さんおっしゃられましたが、これはまた教育委員会がどういうふうにお考えか、あれなんですけど、私自身は、10 年単位というのは、ある面では、日本の中で一つの意識があるんですが、60 年、190 年という段階で、そういう事をやるのは如何なものかなという思いでございます。

昨年、一昨年ですか、生誕 250 周年、偉大な一茶さんの 250 周年、その大きな流れの中で区切りとして、そういう段階でやられるのは、私は大いに結構なことだろうと思いますが、今議員さんが言われたような、その段階の中で、一つひとつ、その記念的なものを真剣に取り組むということは、特に必要無いんじゃないかというふうに思っています。

●議長 (小林幸雄) 佐藤議員。

◆3 番 (佐藤仙治) 私も、その単年度だけで終わるというんじゃないかと、やはり継続し

てやっていく事が大事だと思います。それでいくつか、2・3 提案したいと思うんですが、これは、私がなぜこんな事を言い出したかという、町の活性化に、私はつながると思うんです。たまたま 60 周年というのがあったので出ただけなんですけれど、例えば町の活性化で町長から仮に諮問があって、何かやりましょうと言っても、すぐには考えが浮かばないと思うんですよね。一つとして、例えば 60 周年ですよ、一例として信濃小中学校は確か平成 28 年には開校 5 周年、とかいうことになろうかと思います。そういうような事で、町で、町でというか、町の方から、例えば中学生以上の全町民にアイデアを募って、こんな事をやったらどうだというような事を出して、それをずっと継続してやっていくというのも、私はひとつの活性化の柱になるんじゃないかなと。町長の言われる、若者会議ですか、例えばそういうところに考えを出してもらって、ただ出してくださいと言ったって、やはりなかなか出るものではないと思います。それで、今から 10 年くらい前ですか、私は芽はあると思うんです。種というか。確かプロジェクト、町おこしプロジェクトというのをやったと思います。その辺をもう一度洗い直せば、白紙から立ち上がるわけじゃなくて、いろいろな面、私は持っていると思います。そういう面で、私はたまたま平成 28 年、今町長からご指摘がありましたけれど、来年が 60 周年ですよ。いろいろ所属している同好会とか、いろいろな各種団体も含めて、そういうようなアイデアを募って、いろいろな面で、こう実施していくというような考えはどうでしょうか。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) そのアイデアをお寄せいただいて、やるということは大事なことだと思うんですよ。要は、私はそういう前に、そういった節目というのを一つとして、そのイベントとして捉える必要があるのかということに、疑問を感じているという立場であります。そういう面では、基本的に大きな事業をやろう、いわゆるイベント的に考えた場合、私ども行政が発想していくということよりも、その地域なり団体なりが、あるいは町民の皆さん方が、本当にそういう気持ちになってくるということが大事なことだと思うんですよ。あまりに、その行政主導的に、何かの場合には行政主導もあり得るかもしれない、しかし一般的に考えた場合に、やはり町民の中の皆さん方が、本当にその力を発揮できる思いが、思い入れが強い、そういう体制がなければ、なかなか良い結果につながらないだろうというふうに思うんです。ですから、あまりその行政的な発想ということの中で、今、私はそういったイベントを考えるというのは、こらからちょっとあまり、この辺は考え直した方が良くないんじゃないかなという立場でありますので、その辺でご理解をお願いしたいと思います。

●議長 (小林幸雄) 佐藤議員。

◆3 番 (佐藤仙治) 私は、ちょっと町長とまた考えが違うんですけど、こういうアイデアを募って、実施というかアイデアの企画立案をしていくには、町の職員と住民が

一体となって、やはりやっていくというのが、一つの意識改革にもつながるし、町の活性化には私につながると考えています。というのは、事務方というのは、やはり町の職員がやはりいちばん長けていると思います。汗を出したり動き回るというのは民間の人はできますけど、やはり何をやるにも、ただ集まって汗を出すだけの人では、やはり私は上手くいかないと思います。ある程度、企画立案、事務方もあって初めて、これイベントだけというんじゃないですけど、全ての組織というのは、私は上手くやっていけるんじゃないかなというふうに思っています。したがって、やはり今この停滞しているところで、何か一つでも、二つでもいいから、やはり皆で考えてやってみようや、というのが私の主たる発想であります。これも思いつきでやるんじゃないでなくて、今からある程度周到な準備ですね、そうするとやはり 2 年ぐらいかけてやるのが、私は良いんじゃないかなと。もちろんこれは予算的な措置も付けた上で、ある日突然その補正予算が出てきて実施するとかいうのではなくて、私はそういう考えでいます。だからそのイベントにとらわれるとかそういうことではなくて、基本的な考え方として、やはりそうやって皆で盛り上げていくんだと、それが若者であり、ここに住んでいる人であり、町の職員であり、私はそれでいいと思うんですけど、重ねて町長の見解をお伺いします。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) まあ、ちょっとあれですが、何ていうんですかね、イベントにこだわるわけじゃない、もっと言えばその町づくりも含めての発想だと、こういうふうなご指摘でございます。私はそのことは全く否定する立場ではありません。そういう意味も含めて私の思いというのは、若干公約にも触れますが、地域の中で、地域の皆さんが本当に新しいまた活動を町の活力のためにやりたい、そういう部分、あるいは団体の皆さんもそうです、そういう皆さん方が何か自主的にこの町のためにやりたい、その力に対して町が支援できる方法は何かというような事も含めて、公約の一つにさせていただいています。合わせてそこに、従来なかなかご意見を反映できないという思いがあるものですから、若者会議というようなことも含めて、これは仮称ですがね、仮称・若者会議というようなものも含めて、そういう皆さんの総合的な、いろいろなご意見も頂戴しながら活力を生み出していくという町づくりを進めたいということでございますので、そういう思いで進めたいと思いますので、手法的には大きなイベントをやる、そういう、もし、いやいや仮にね、町が発想をして、大きなイベントをやるという時には、事前の準備から町民の皆さんにも訴えかけて、そして納得いただいて、理解いただいて進めるという手法としては、そういう場合には多くのご意見も頂戴しながら関わっていただくということが大事だと思うんですが、通常の行政運営の中で、私はいろいろな日常の中でも、いろいろなご意見を頂戴できる、していただくというのは大変ありがたいことだと思うんですが、そのことを特筆して、今何かをしようということじゃなくて、先ほど言いましたように、私自身の、これからの町政運営としてのあり方として、思いとして、その公約に先ほど触れさせていただきましたが、そんな手法で取り組んでいきたいということでございますので、ご理解をお願いしたいと思います。

●議長 (小林幸雄) 佐藤議員。

◆3 番 (佐藤仙治) 最後の提案になりますけど、町の行事、いろいろ見ていると、年間行事ですが、結構ダブっているのが多いんですよ。例えば、こっちで講演会があるよと、こっちも講演会あるよと、ということで、この人員の少ない折に同じところを、いろいろ行事や講演会なりを、二つでやってもやはり集まらないと思うんですよ。私は提案したいのは、その開催の日程にあたっては、重複させないよう十分な事前調整を行っていただいて、大体ここはこういうのをやるんだよと、大体決まったのもありますよね、既に、決まっているものも。年間計画なり、もし分かれば住民にでも配布するなりして、というようなことで、やはり考えていかないとまずいんじゃないかな、というふうに考えております。この辺の見解について、町長から見解をお聞きしたいと思います。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 町内で行う、大きなといいますか、いろいろな事業について、あまりダブると、参加する人も大変だし、企画する人もまた期待はずれになるという部分もございます。そういう意味では、今の段階では、私ども町に関わる、いろいろな事業といいますか、それらについては、私は今後も、課等の長の会議等々で、各課長さん方が所管の分野における、いろいろな動きというものをアンテナを高くしていただいて、その中で充分、日程調整も重複のないようにしていくというのが、まず一つだろうと思うんです。その中で、最終的に一般、一般という言い方はまずいですね、町民の皆さん方に、年間的にどうなのかと、なかなかこの日程が決まっている部分も、ある面ではいくつかあるかもしれないです。その辺はある面では町民の皆さん方も理解しているというところがございますので、それよりもその他にいろいろなもので日程がダブるというようなことが、一番の問題になってくるのかなと思いますので、当面分かる日程については、できるだけ早目に、町はこういう事を今企画しています、というようなことは、今後の中ではお知らせもしていくというのは、大事なことだなと思っています。

●議長 (小林幸雄) 佐藤議員。

◆3 番 (佐藤仙治) 今のことに関連して、学校、教育委員会の方は同じような考えでよろしいのでしょうか。教育長にお伺いします。

●議長 (小林幸雄) 静谷教育長。

■教育長 (静谷一男) 全く同じであります。ただ教育委員会の場合、いろいろな施設がございます。土曜、日曜、目的ごとに開催をしなければならぬ、いろいろな行事がございますので、そういう部分については、できるだけ調整はしますけれども、工夫を

していきたいと思っています。

●議長 (小林幸雄) 佐藤議員。

◆3 番 (佐藤仙治) 私、くどいようですが、防災の、さっきの情報伝達の機器については、スピードアップで、是非早目に取り付けていただき、検討して実施していただきたいということを要望して、私の一般質問を終わります。

●議長 (小林幸雄) 関連質問のある方。7 番・酒井議員。

◆7 番 (酒井 聡) 議席番号 7 番・酒井聡です。許可をいただきましたので、只今の佐藤仙治議員さんの質問のうち、神城断層地震のケアに関する事でちょっと関連して、一、二、お聞かせをいただきたいと思います。

地震が発生したのが、3 連休の初日、しかも土曜日の夜ということで、職員を参集させるのに、結構きつい時間帯ではなかったのかなと思う反面、先ほどの総務課長の説明のとおり、87 名すぐに集まったと、これは、とても評価すべき事でありまして、消防団員を通じて被害の情報の収集、またいろいろなところの情報収集も速やかに行われたということ、とても評価するところであります。時系列を追った事の流れというのを資料としていただいた経過もありますが、一点、病院に関する事で、伺いたいものがありますので、伺います。

古い話で恐縮ですけれども、以前、柏崎沖ですか、中越沖地震が発生をいたしました。もうずいぶん時間が経つわけですけれども、あれも確か祝日、海の日、日中であつたと記憶しております。私は、ちょうどその時、家族の見舞いで長野市内のある大きな病院の中にいたわけですが、看護師さんがとても慌てておられて、避難ですとか、そういった情報伝達が全くできていなかったのをちょっと目の当たりにした記憶がございます。信越病院も当日、入院患者さんが多数おられたと思います。あの揺れですから、例えばベッドが揺れたとか、とても心配をされたのではないかと思います。看護師さんのケア、どのような状態であられたのか、まずそこから伺いたいと思います。

●議長 (小林幸雄) 北村病院事務長。

■病院事務長 (北村 勇) 病院につきましては、ご存じのとおり、夜間については、3 人の看護師で一般病棟の場合には看護しております。その中で、直ちに入院患者さん、幸いといいますか、満床という事ではなくて、入院患者数はそれほど多くはなかったわけでございますけれども、直ちにその中で、まず第一に安全確認をすると、そういったことをしている中で、近場の看護師等も続々と駆けつけてまいりましたので、そういった中で、それぞれ確認を取ったところ、幸いにも患者さん誰 1 人として、けが等を負った事態がなかったということで、安心しておたつたわけでございます。その後、それぞれの施設、それからいろいろな機器等もございまして、一応全部確認したところ、幸い

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (3 日目)

にも病院では被害はなかったということで、町の方へ報告したところでございます。

●議長 (小林幸雄) 酒井議員。

◆7 番 (酒井 聡) 入院されて寝ておられる皆さんも、当然驚いたと思うのですが、入院されている皆さんのご家族の皆さんも、当然同じように心配をされたと思うのです。電話なり何なりで無事を連絡するというケアも当然行われたと思うのですが、そのあたりを伺います。

●議長 (小林幸雄) 北村病院事務長。

■病院事務長 (北村 勇) その辺につきましても、当然、照会のある方については当然細かなご説明をしますが、当日ああいった時間帯でございますので、それぞれまた各ご家庭の方に連絡するという対応はとってございませんでした。

●議長 (小林幸雄) 酒井議員。

◆7 番 (酒井 聡) 時間帯が時間帯ということですので、翌日でも無事を知らせるというありがたい電話ですから、たぶんやられたと思うのですが、承知をいたしました。

それともう一点、今回の地震の被害でありますけれども、軽症者が、お一人ありました。この軽症というのは、幸いと言うべきか分かりませんが、お一人で済んだという見方もあろうかと思えます。場合によっては、多くのけが人が次々に救急搬送されるような、そういった事も想定できたかと思えます。受け入れ態勢がどのようにできていたのか確認をいたします。

●議長 (小林幸雄) 北村病院事務長。

■病院事務長 (北村 勇) 幸いにもけが人が 1 人という事で、今回喜ばしいことだったわけですが、病院といたしましては、当時私も災害本部の方へ駆けつけまして、それぞれ状況を聞く中で、万が一けが人が搬送された場合に対応できるように、そういった形の中で、病院の方に指示はしてございました。ただ、幸いにも当日そういった動きが無かったということで、また帰っていただいたんですけども、万が一そういう事態になった時には、すぐ駆けつけられるようにということで、指示はしてございました。

●議長 (小林幸雄) 酒井議員。

◆7 番 (酒井 聡) 今の答弁の内容からしますと、被害を想定して、前もってお医者さんが詰め掛けて待つということではなく、連絡が来てからお医者さんを招集するという、

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (3 日目)

そういう対応をとったということによろしいのでしょうか。

●議長 (小林幸雄) 北村病院事務長。

■病院事務長 (北村 勇) はい。医師につきましては、そういう想定の下に来ていただいて、待っているという状態にはしてございませんでした。

●議長 (小林幸雄) 酒井議員。

◆7 番 (酒井 聡) 病院であります。どのくらいのけが人の方が搬送されるのか、これは全く未知数であります。そういったことも想定されて、訓練なり何なり、生かしていただければと思うのですが、見解を伺います。

●議長 (小林幸雄) 北村病院事務長。

■病院事務長 (北村 勇) 今回こういった地震が起きたということで、我々も年に 2 回は訓練を行っているわけでございますけれども、今後更に、こういったことを活用して有事の際に不測の事態が起きないように対応してまいりたいと考えております。

●議長 (小林幸雄) 酒井議員。

◆7 番 (酒井 聡) こういった被害、本当の緊急性を要するわけであります。けがをしたからといって、すぐに、例えば上越なり長野なりの大病院に直接行くということは、まずできないわけであります。町内の医療の拠点として、受け入れ態勢なり、もう一回考えていただきたいということ、それを要望いたしまして質問を終わります。

●議長 (小林幸雄) 以上で、佐藤仙治議員の一般質問を終わります。

この際、申し上げます。昼食のため 1 時まで休憩といたします。

(午後 0 時 05 分)